

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日
配当金受領株主確定日	期末配当金：3月31日 中間配当金：9月30日
単元株式数	100株
定時株主総会	毎年6月
公告方法	電子公告 (http://www.fujimiinc.co.jp) ただし、事故その他やむを得ない事情によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載することといたします。
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先 及び照会先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (通話無料)

株式会社フジミインコーポレーテッド

お問い合わせ先：経営企画部経営企画課
TEL：052-503-8181 (代表)
URL：<http://www.fujimiinc.co.jp>

Copyright (C) 2020 Fujimi Incorporated. All rights reserved.

各種手続のお申出先

- 支払期間経過後の配当金のお支払いについては、株主名簿管理人にお申出ください。
- 住所変更、単元未満株式の買取、配当金受取方法の指定等
証券会社をご利用の株主様は、お取引の証券会社へお申出ください。
証券会社をご利用でない株主様は、特別口座の口座管理機関である日本証券代行株式会社へお申出ください。

【ご注意】

特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、日本証券代行が口座管理機関となっておりますので、下記特別口座の口座管理人に、お問い合わせください。

特別口座管理機関 連絡先
日本証券代行株式会社
〒168-8620
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
日本証券代行株式会社 代理人部
電話 0120-707-843 (通話無料)



この印刷物は、適切に管理された森林で生産された木材を使った環境配慮型のFSC®認証紙と、植物油を使用し、VOCの排出を抑えた環境対応型リサイクルインキ「ベジタブルインキ」を使用しております。

株式会社フジミインコーポレーテッド 株主通信

FUJIMI TODAY vol.50

2019.4.1 ~ 2020.3.31

2020年6月発行

特集

70周年記念特集 フジミ70年の軌跡

技術を磨き、心をつなぐ

FUJIMI

証券コード 5384



お客様目線の実践
パウダー&サーフェスカンパニーへの進化
「働きがい」と「働きやすさ」の醸成
当事者意識とやり抜く力の確立
革新への挑戦



技術を磨き、心をつなぐ

私たちの「磨く技術」は半導体をはじめとしたさまざまな産業で活かされています。フジミはお客様にあらゆる製品を磨いていただくことで、人々が快適に暮らせる未来の創造に貢献します。

代表取締役社長

関 敬史

株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2020年3月期の経営成績

当社グループを取り巻く環境は、期初から第3四半期にかけて、米国では緩やかながら景気拡大が持続した一方、日本・欧州では景気の足踏み状態が続き、中国では貿易摩擦の影響を受け景気は減速傾向にありました。第4四半期については、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響を受け、世界経済は不透明感が急速に強まりました。また、世界半導体市場は、ロジックデバイスでは市況は堅調であるものの、メモリデバイスでは需要減退による稼働調整局面が続き、シリコンウェハ市場も軟調に推移しました。

こうした状況下、当社グループでは一丸となって売上拡大とコスト削減に努めました結果、当連結会計年度の業績は、売上高38,408百万円(前期比2.7%増)、営業利益6,007百万円(前期比13.1%増)、経常利益6,177百万円(前期比9.6%増)、親会社株主に帰属する当期純利益4,270百万円(前期比0.1%増)となり、営業利益、経常利益、当期純利益とも過去最高となりました。

トピックスとしまして、米国インテル社よりCMPスラリーの供給企業としては唯一2019年度サプライヤー・コンテニューアンス・クオリティー・インクルーブメント(SCQI)賞を受賞した他、お客様から当社の製品・品質管理などに対し、高い評価をい

ただくことができました。当社の経営方針の一つである「お客様目線の実践」を評価いただいた結果であると実感しております。引き続きお客様の視点に立った製品開発とものづくりを推進してまいります。

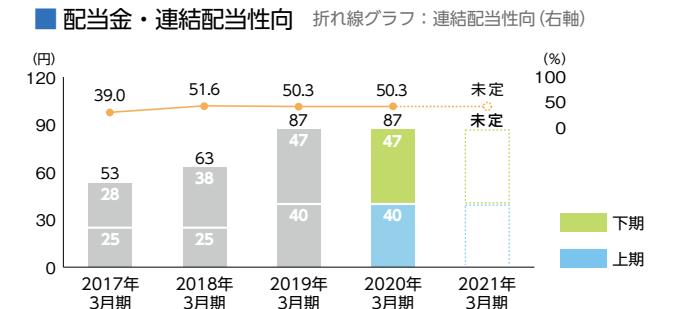
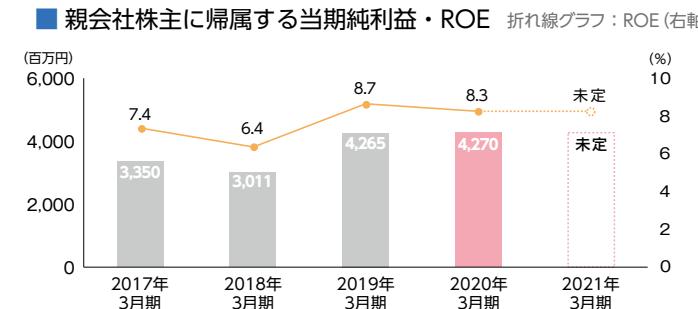
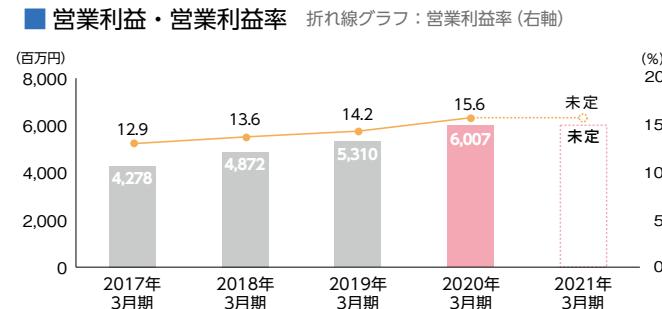
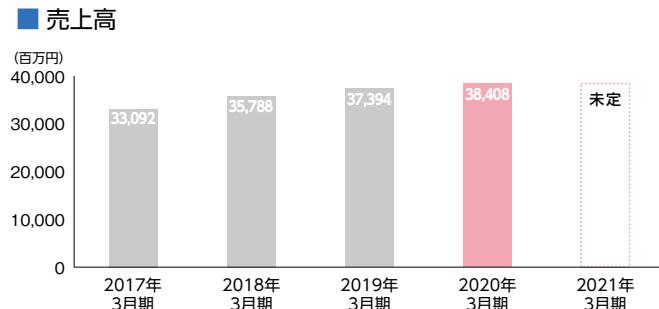
2021年3月期の見通しについて

2020年に入り、新型コロナウイルス感染症が世界中に広がりました。当社におきましては、さまざまな感染防止策を講じたこともあり、日本国内及び海外において、生産・出荷・配送に大きな影響は出ておりません。新型コロナウイルスに関しては、今後第2波の到来が懸念されており、引き続き感染防止策を徹底し、お客様への供給責任を果たしてまいります。

なお、2021年3月期につきましては、新型コロナウイルスが当社業績へ及ぼす影響を見通すことが困難であるため現時点では業績予想を未定としております。合理的な算定が可能となり次第開示いたします。

当社は2020年10月21日に創業70周年を迎えます。この節目の年を無事に迎えることができることにつきまして、皆様のご厚情に感謝するとともに、これまでと変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

連結決算ハイライト ※2021年3月期の連結業績予想は、現時点で合理的な業績予想の算定を行うことが困難なことから未定といたします。



フジミ 70年の軌跡

当社は1950年の創業から今年で70周年を迎えます。今号では当社70年の歩みをご紹介します。



旧本社

本社



精密研磨材メーカーの誕生

国内初の研磨材生産

当社の歴史は、創業者の越山照次が1950年、名古屋市昭和区に不二見研磨材工業所を設立したことに始まります。光学機器メーカーから依頼を受け、照準器用レンズなどの光学ガラス製品を磨く研磨材の研究開発に着手し、商品化に成功すると国内初となる精密人造研磨材の生産を開始しました。1953年に法人化し、不二見研磨材工業株式会社を設立してからは、光学分野だけでなく砥石業界へも販路を広げていきました。



越山 照次

- 1950年** 不二見研磨材工業所設立（創業）
当時の研磨材は海外製品のみで、国内では生産されていませんでした。当社は、製品を初出荷した1950年10月21日を創業日としています。
- 1953年** 不二見研磨材工業株式会社設立

半導体分野への進出

1957年、後に本社所在地となる枇杷島に工場を建設しました。同時期にトランジスタラジオの量産化に成功していた電気機器メーカーから、トランジスタに使われるゲルマニウム半導体基板の研磨依頼を受け、研磨材F0の供給を開始しました。これが現在においても当社の主力事業である半導体業界へ進出するきっかけになりました。その後、半導体基板の素材がゲルマニウムからシリコンになると、1967年にシリコンウェハ用研磨材GLANZOXを開発しました。そして、現在に至るまでシリコンウェハ用研磨材において他を圧倒する高い世界シェアを維持しています。

- 1957年** 愛知県清須市に枇杷島工場を建設
- 1959年** 本社を現在の愛知県清須市西枇杷島町に移転
- 1970年** 愛知県稲沢市に稲沢工場を建設



当時の稲沢工場

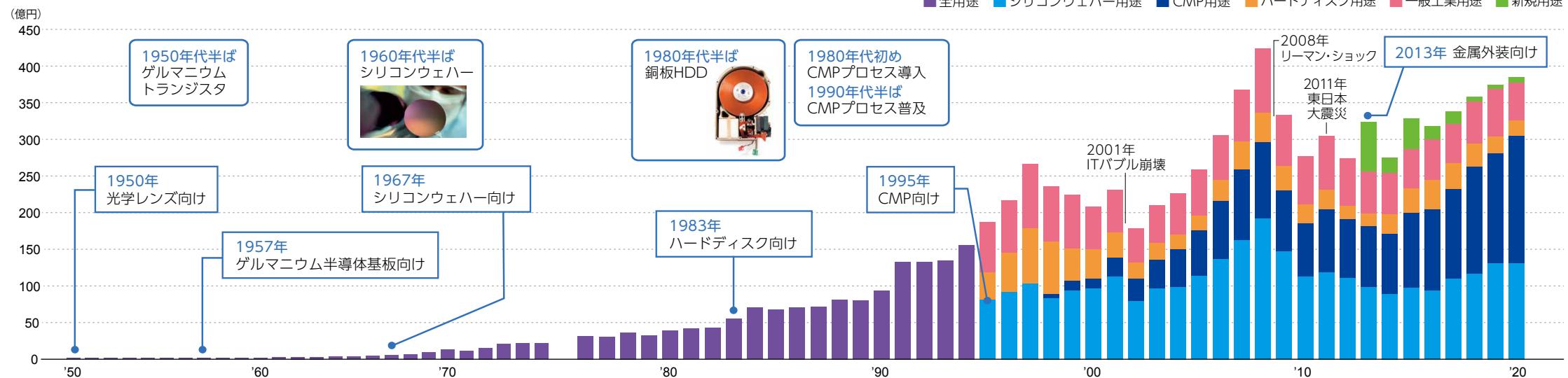
生産体制の強化と事業拡大

事業展開の加速

1977年、プラスチックレンズ用研磨材POLIPLAを開発し、生産を開始しました。1983年には、プラスチックレンズの研磨で培った技術を応用し、パソコンなどの記録媒体として研究が行われていたハードディスクドライブ（HDD）の基板向けに研磨材を開発しました。その後、HDD市場の拡大に伴い、1995年にHDDメーカーが集積するマレーシアにフジミマイクロテクノロジーを設立、翌1996年には国内におけるハードディスク及びプラスチックレンズ向け研磨材の需要増加に対応すべく各務東町工場を建設し、ハードディスク用研磨材市場での地位を確固たるものにします。

一方で半導体関連では、高まる需要に対応すべく、1985年に各務原工場の操業を開始しました。同工場は半導体産業の拡大とともに、生産品目の増加と生産能力の増強を重ね、国内の主力工場となっていきました。

売上推移（1950年～2020年）



また、1984年には米国での事業展開を充実させるため、米国イリノイ州に販売拠点を設立しています。その後、1988年に世界最大の半導体メーカーの拠点があるオレゴン州に製造拠点を設立するとともに、開発・販売機能を整備し、これが現在のCMP事業の礎となりました。

急成長の先に待っていた試練

順調に業績を拡大する中、当社に試練が訪れたのは2000年に入ってからのことでした。東海豪雨（2000年9月）と米国ITバブル（1999年～2000年頃）の崩壊が当社を襲い、2002年3月期には創業から今日に至るまで唯一の赤字を計上しました。

-
- 1984年 米国イリノイ州にフジミコーポレーションを設立
- 1985年 岐阜県各務原市に各務原工場を建設
- 1988年 米国オレゴン州にフジミアメリカを設立
- 1995年 マレーシアにフジミマイクロテクノロジーを設立
- 1996年 岐阜県各務原市に各務東町工場を建設
-

フジミの新たな挑戦と海外展開

お客様満足を目指した品質改革

業績の落ち込みはありましたが、全社一丸となって経費節減と売上拡大に取り組み、翌2003年3月期には黒字化しました。その後2007年2月に東証1部上場を果たし、2008年3月期には創業以来最高となる売上高426億円を計上します。しかし、同年9月にリーマン・ショックが起これば、お客様の徹底したコスト削減の影響を受け当社の売上は大きく減少しました。当社はその対策として、高度化するお客様の品質ニーズに対応すべく、組織体制の見直しと社員の意識改革に取り組むこととなります。2011年には経営方針に「お客様目線の実践」を掲げ、営業と開発を一体化した事業部制を導入するとともに、5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）を徹底して製造現場の効率化と品質向上に努めました。また、製品の設計段階から品質トラブルを未然に防ぐ品質改革の活動を強化していきます。そして、お客様の要求や使用上の不具合に迅速かつ機動的な対応ができる社長直轄組織のプロダクトサポート室を創設し、品質改革を進め、長期的な視点で危機からの脱却を図っていきました。

事業領域拡大に向けた新規事業創出プロジェクト

2000年以降、研磨材で培った技術で新たな分野にチャレンジしてきました。2000年に立ち上げた溶射*材事業は、立ち上げ後しばらくは厳しい事業環境が続きますが、2016年3月期以降、半導体・FPD製造装置向けの売上が大きく伸び、収益面で全社業績に貢献するまでに成長しています。溶射材で培った技術は、現在3D金属プリンター向け超硬材料の開発など、次なる新規案件へのチャレンジに引き継がれています。



溶射ガン

また、2012年には非半導体分野における新規事業の創出・育成を目的に新規事業創出プロジェクトが展開されました。その活動から生まれた電子機器の金属筐体向け製品は、リーマン・ショック後の半導体分野の回復が遅れた厳しい時期において、収益に大きく貢献しました。

CMP拡大による海外展開

米国インテル社がCPU*製造にCMPプロセスを採用した1992年から、当社は半導体デバイス用CMP研磨材の研究に着手しました。そして1995年に誕生したのがCMP用研磨材

PLANERLITEです。販売開始後、すぐには売上は伸びなかったものの、徐々にお客様から支持を得て日本・米国・アジア各国の半導体メーカーで採用されていきました。2000年には岐阜県各務原市に半導体関連のお客様と同レベルの最新設備を導入した研究開発センターを稼働させ、製品開発が加速しました。そして、2002年に世界最大手の米国インテル社からPQS賞*を受賞します。この受賞により、半導体CMPにおける当社の認知度が向上し、CMP事業の拡大につながっていきました。また2004年には、同社より最高位のSCQI賞*を受賞しました。

その後、半導体産業の中心がアジアへ移行する中で、2005年から2008年にかけて台湾・中国・韓国に駐在員事務所を開設しました。さらには、2011年に台湾でのCMP事業拡大のため、開発・製造・販売機能を備えたフジミ台湾を設立、2013年には韓国での販売サポートのためフジミ韓国を設立しました。海外拠点をお客様の近くに戦略的に設置することで、お客様のニーズにより早く、的確に対応することが可能になりました。その結果、最先端半導体分野で当社製品が着実に採用されるようになり、2016年3月期より最高売上高を5期連続で更新中です。



各務原工場



各務東町工場



東海豪雨（本社前）



溶射材事業部



3D金属プリンターによる造形の様子



PLANERLITE



研究開発センター

▶ 溶射

高温で溶かしたセラミックスや金属の粉末を溶射対象物の基材に高速で噴射塗布して、その物の表面を改質する表面加工技術で基材の耐熱性や耐摩耗性などを飛躍的に高めるもの。

▶ CPU

Central Processing Unitの略。別名はプロセッサと言い、コンピュータで最も重要な演算処理を行う電子デバイス。

▶ PQS（プリファード・クオリティ・サプライヤー）賞

インテル社がその絶えまない卓越性への追求と確固としたプロフェッショナリズムを備えた事業活動を行うサプライヤーを表彰するもの。

▶ SCQI（サプライヤー・コンテュアンス・クオリティ・インブループメント）賞

インテル社が最も傑出したサプライヤーを表彰するもので、品質、コスト、供給体制、技術力、カスタマー・サービス、労働及び倫理要件、環境面でのサステナビリティ（持続可能性）において、極めて高い水準を達成したサプライヤーに授与される。

2000年 岐阜県各務原市に研究開発センターが完成

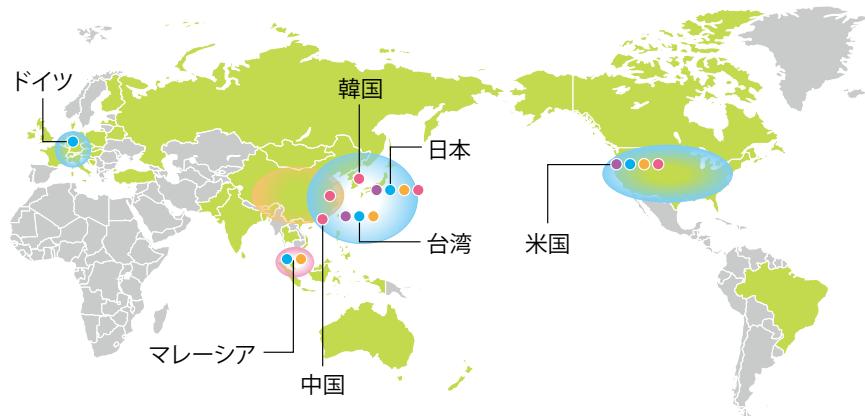
2004年 欧州にフジミヨーロッパを設立

2007年 中国に上海営業所を開設

2011年 台湾にフジミ台湾を設立

2013年 韓国にフジミ韓国を設立

■ グローバルマップ



- 半導体関連生産地域
- ハードディスク関連生産地域
- モバイル・ディスプレイ関連生産地域
- 開発
- 製造
- マーケティング・技術サポート
- 販売

■ CMP売上高推移 (2016年3月期～2020年3月期)



社員が創り出すフジミの未来

次なる成長への取り組みと組織体制の強化

2014年に新設した新規事業本部では、さまざまな業界のお客様から寄せられるシリコン、CMP、ハードディスクなど既存事業以外の新たな表面加工ニーズに対し、研磨材のみならず研磨装置や周辺消耗材の提案・提供を含めたトータルソリューションで応えています。

2015年、基盤技術強化と10年先を見据えた新規事業機会の探索を目的に先端技術研究所を設立しました。展示会や学会、大学、公的な研究機関などとの連携活動を活性化し、パウダー&サーフェス分野での新規事業に結びつくテーマ探索に努めるとともに、新規研究開発テーマで外部機関との共同開発を進めています。

また同年11月、CVC（コーポレート・ベンチャー・キャピタル）ファンドを設立し、当社が得意とする整粒技術や研磨技術をとともに進めてゆける有望なベンチャー企業に投資を実行しております。

働きがいと働きやすさを実感できる会社へ

当社では企業価値向上を目指し、働きがいを実感できる組織づくりと働きやすい就業環境の整備にも取り組んでいます。社員一人ひとりの能力を最大限に活かすため、従業員満足度調査を定期的実施し、社員の声を聴き取組みを行っております。社員が仕事に対するやりがいを持ち、安心して仕事に取り組むことができれば、良い製品をお客様に提供することができると思っています。また、法定を上回る当社独自の育児・介護支援制度の拡充や社員の健康維持サポートにも取り組んでいます。

最後に、株主の皆様にはこれまでのご支援に対して深く感謝の意を申し上げます。引き続き企業価値向上に取り組んでまいりますので、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2015年 中国にフジミ深圳を設立

岐阜県各務原市に先端技術研究所を設立

海外拠点



FUJIMI CORPORATION (米国)



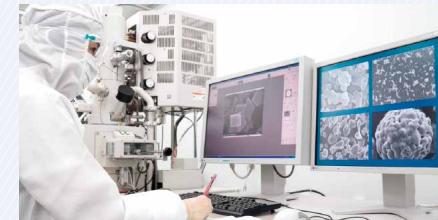
FUJIMI-MICRO TECHNOLOGY SDN. BHD. (マレーシア)



FUJIMI TAIWAN LIMITED (台湾)



先端技術研究所



砥粒開発活動



ロボット研磨イメージ

用途別の動き

シリコンウェハー用

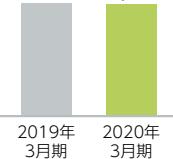
売上構成比 33.5%

主に小口径シリコンウェハー市場の減速により、ラッピング材の売上高は3,838百万円(前期比10.7%減)となりました。一方、ポリシング材につきましては、当社製品の採用が拡大したことから、売上高は9,006百万円(前期比4.5%増)となりました。

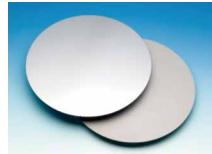
半導体基板となるシリコンウェハーを高精度に平坦化・鏡面化する研磨工程で用いられる研磨材を研究開発し製造販売する事業です。

■売上高(単位:百万円)

12,919 12,845



横ばい



シリコンウェハー

CMP用

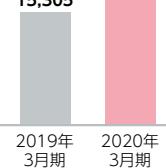
売上構成比 45.2%

メモリデバイス市況は停滞したものの、最先端半導体デバイス向け製品の販売が増加したことにより、売上高は17,361百万円(前期比13.4%増)となりました。

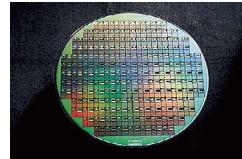
半導体デバイスの製造工程で用いられる研磨材を研究開発し製造販売する事業です。

■売上高(単位:百万円)

15,305 17,361



13.4% UP



デバイスウェハー

ディスク用

売上構成比 5.6%

SSD(ソリッドステート・ドライブ)への置き換えによる市場の縮小及び顧客の生産プロセスの変更の影響により、売上高は2,164百万円(前期比4.5%減)となりました。

デジタルデータの記録媒体であるハードディスクドライブ用ディスク基板の製造工程に用いられる研磨材を研究開発し製造販売する事業です。

■売上高(単位:百万円)

2,268 2,164



4.5% DOWN



データセンター

一般工業用・その他

売上構成比 15.7%

非半導体関連の一般工業用研磨材につきましては、売上高は3,571百万円(前期比9.2%減)、その他につきましては、2,465百万円(前期比17.0%減)となりました。

多種多様な用途向けに研磨材や機能性材料を提供しております。また、半導体装置、航空機及び鉄鋼などさまざまな業界の溶射用途向けに溶射材を提供しております。

■売上高(単位:百万円)

6,902 6,036



12.5% DOWN



溶射材の主力製品 SURPREX

NEWS&TOPICS

インテル社よりSCQI賞を受賞

当社の米国子会社であるFUJIMI CORPORATIONが、米国インテル社より2019年度SCQI賞を受賞しました。SCQI賞はインテル社が最も傑出したサプライヤーを表彰するもので、2014年度よりPQS賞の受賞を含め、6年連続の受賞となります。



SUMCO社よりサプライヤーアワードを受賞

2020年1月に大手半導体シリコンウェハーメーカーであるSUMCO社よりサプライヤーアワードを受賞しました。これは3度目の受賞で、同社との緊密な連携のもと、当社の高い技術力を活かして積極的に高品質化に取り組み、製品を柔軟かつ確実に供給したことを評価されたものです。



いとしろ 石徹白で社会貢献活動を始動

当社は、2020年10月に創業70周年を迎えるのを機に、本年4月より岐阜県郡上市白鳥町石徹白において社会貢献活動を行うこととしています。石徹白は白山国立公園の南山麓に位置する人口約250人の小さな集落です。当社は生産活動において大量の地下水を使用することから、過疎対策に取り組む石徹白の皆様と水と共にある暮らしを学び、協働して水源地の環境を守ることで、自然界における水環境の維持に貢献したいと考えております。活動状況につきましては、当社ホームページを通じてご報告させていただきます。



連結財務諸表

連結損益計算書

	2019年3月期	2020年3月期
売上高	37,394	38,408
売上原価	21,785	21,588
売上総利益	15,609	16,819
販売費及び一般管理費	10,299	10,811
営業利益	5,310	6,007
営業外収益		
受取利息	117	120
為替差益	137	—
その他	102	101
営業外収益合計	357	221
営業外費用	31	51
経常利益	5,637	6,177
特別損失	—	413
税金等調整前当期純利益	5,637	5,764
法人税、住民税及び事業税	1,384	1,490
法人税等調整額	△13	3
当期純利益	4,265	4,270
親会社株主に帰属する当期純利益	4,265	4,270

(単位：百万円)

売上高

中国の景気減速などの影響により一般工業用研磨材の販売が減少するも、CMPで最先端半導体デバイス向け製品の販売が増加したことから、売上高は前期比2.7%増の38,408百万円となりました。

営業利益

売上拡大とコスト削減に努めた結果、前期比13.1%増の6,007百万円となりました。

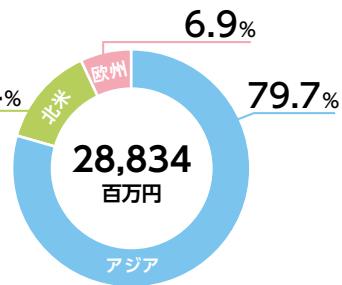
親会社株主に帰属する当期純利益

前期比0.1%増の4,270百万円となりました。

海外売上高 (仕向先別)

(2020年3月期)

※各区分に属する地域の主な内訳は次のとおりです。
 ■アジア：台湾、ベトナム、シンガポール、マレーシア、韓国、中国
 ■北米：米国、カナダ
 ■欧州：ドイツ、イタリア、イギリス



	2019年3月期	2020年3月期
海外売上高	27,706	28,834
連結売上高	37,394	38,408
連結売上高に占める割合	74.1%	75.1%

(単位：百万円)

連結貸借対照表

	2019年3月期	2020年3月期
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	21,852	23,769
受取手形及び売掛金	8,001	8,228
有価証券	3,500	1,499
たな卸資産	7,253	7,295
その他	634	503
貸倒引当金	△26	△18
流動資産合計	41,216	41,279
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,494	6,788
その他(純額)	6,383	7,144
有形固定資産合計	13,877	13,933
無形固定資産	400	437
投資その他の資産		
投資有価証券	1,455	2,939
繰延税金資産	777	787
その他	130	129
貸倒引当金	△9	△9
投資その他の資産合計	2,354	3,846
固定資産合計	16,632	18,217
資産合計	57,848	59,496

	2019年3月期	2020年3月期
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,517	2,499
未払法人税等	789	767
賞与引当金	1,073	1,242
株式給与引当金	294	—
その他	2,172	1,886
流動負債合計	6,848	6,395
固定負債		
退職給付に係る負債	701	752
株式給与引当金	15	157
その他	51	111
固定負債合計	768	1,021
負債合計	7,616	7,416
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,753	4,753
資本剰余金	5,570	5,570
利益剰余金	45,031	47,124
自己株式	△5,641	△5,449
株主資本合計	49,714	51,998
その他の包括利益累計額	517	80
純資産合計	50,231	52,079
負債純資産合計	57,848	59,496

(単位：百万円)

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、6,232百万円の収入となり、前期に比べ、1,835百万円増加しました。これは主に、当期のたな卸資産の増加額が少なかったことによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は、3,544百万円の支出となり、前期に比べ、262百万円増加しました。これは主に、投資有価証券の取得による支出があったことによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は、2,213百万円の支出となり、前期に比べ、258百万円増加しました。これは主に、配当金の支払いが増加したことによるものであります。

配当金及び連結配当性向の推移

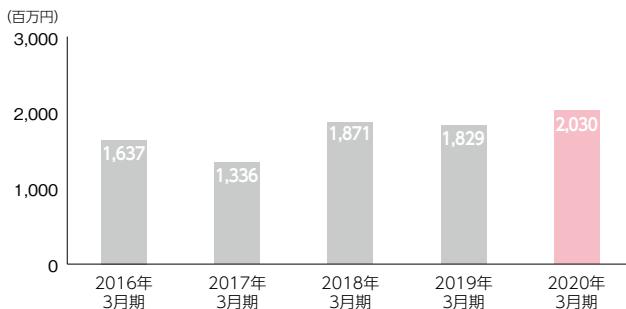
当社は、株主に対する適正な利益還元を行うことを経営の重要課題と認識し、配当につきましては連結配当性向を50%以上とすることを目標として、業績に応じた積極的な株主還元を実施するとともに安定配当の継続にも留意することを基本方針としております。このような方針のもと、当期末配当につきましては、1株につき40円を予定しておりましたが、7円増配の47円といたします。この結果、中間配当金を含めた当期の配当金は、1株につき87円となります。

連結キャッシュ・フロー計算書

	2019年3月期	2020年3月期
●営業活動によるキャッシュ・フロー	4,397	6,232
●投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,281	△3,544
●財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,954	△2,213
現金及び現金同等物に係る換算差額	62	△114
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△777	360
現金及び現金同等物の期首残高	23,336	22,559
現金及び現金同等物の期末残高	22,559	22,919

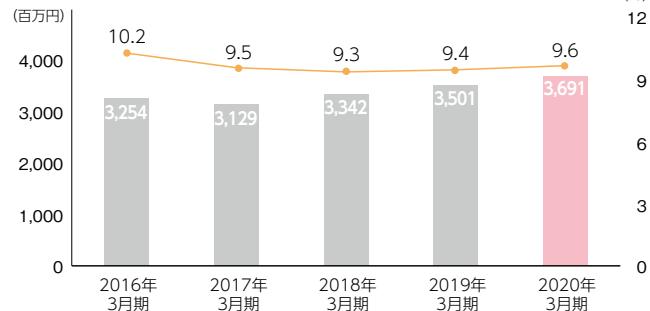
(単位：百万円)

設備投資

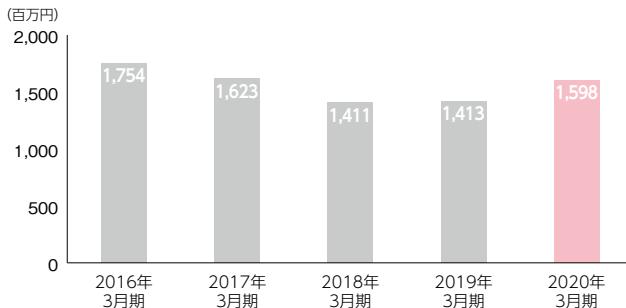


研究開発費・売上高比

折れ線グラフ：売上高比 (右軸)



減価償却費



株式情報

2020年3月31日現在

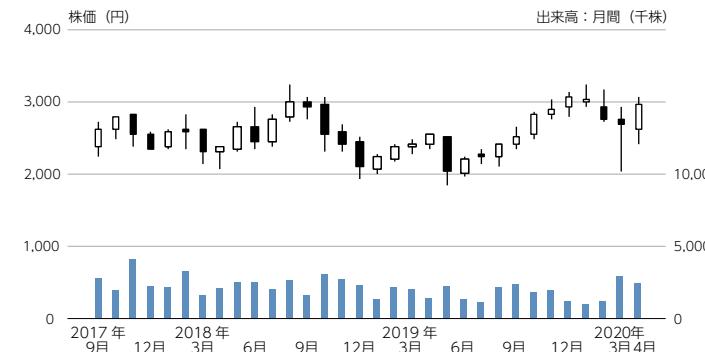
株式の状況

株式数	発行可能株式数	120,000千株
	発行済株式総数	28,699千株
	株主数	5,345名

大株主(株主名)	持株数(千株)	持株比率(%)
有限会社コマ	3,743	13.0
株式会社フジインコーポレーテッド	3,667	12.7
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,812	6.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,469	5.1
株式会社かんぽ生命保険	1,005	3.5
株式会社三菱UFJ銀行	728	2.5
越山 勇	717	2.4
フジ取引先持株会	665	2.3
日本生命保険相互会社	639	2.2
一般財団法人越山科学技術振興財団	600	2.0

*持株数は千株未満を切り捨て、持株比率は小数第2位を切り捨てています。

株価及び出来高の推移



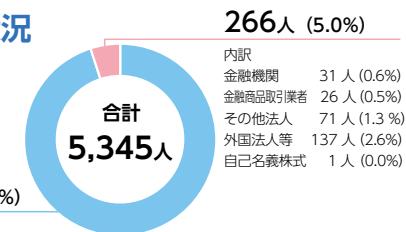
株主分布状況

2020年3月31日現在

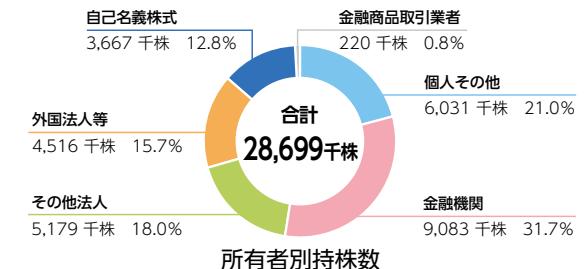
5,345人 (5.0%)

5,079人 (95.0%)

個人その他



所有者別株主数



所有者別持株数

役員

2020年
6月24日現在

代表取締役社長	関 敬史
常務取締役	伊藤 広一
取締役	大脇 寿樹
取締役	鈴木 勝弘
取締役	川下 政美*
取締役	浅井 侯序*
常勤監査役	藤川 佳明
監査役	高橋 正彦**
監査役	岡野 勝**

*印は社外取締役 **印は社外監査役

会社データ

2020年3月31日現在

商号	株式会社フジインコーポレーテッド
証券コード	5384
本社所在地	愛知県清須市西枇杷島町地領2-1-1 TEL. 052-503-8181 (代表)
設立年月日	1953年(昭和28年)3月20日
資本金	4,753百万円
代表者	代表取締役社長 関 敬史
従業員	908名(単体636名)